アメリカ大学奨学金プログラムーFA宣言方式！！

アメリカの奨学金は、学業を続ける上で金銭的な援助を必要としている方に貸付または給付される Financial Aid と、スポーツ、文化交流、成績等で優れている方に支給される Scholarship があります。$100、$200 という小額の奨学金から、全額支給の奨学金まで幅広くあり、アメリカ人大学生の多くが、何らかの奨学金を得ています。この奨学金は、大学OBや地元の資産家からの寄付金が主な財源です。奨学金の情報は、ホームページ上に公表されていないものも多く、入学を希望する大学に直接連絡、訪問し、その大学から詳しい話を聞くことが難しい留学生の場合、限られた情報しか得られないのが現状です。



全米約 4,200 校もある大学から自分に合った大学を選び出し、その大学からスカラーシップを受けることは簡単なことではありません。この「アメリカ大学奨学金プログラム」では大学とのネットワークを活かし、これらの情報を直接大学から収集したり、特別に奨学金を支給していただけるよう交渉しながら、授業料・滞在費・食費の 30%～50%以上を奨学金対象とする大学を複数紹介しています。意欲溢れる日本の若者が奨学金制度を利用してアメリカへ留学することで、彼らが逞しい国際人に成長できるように支援しています。

アメリカの大学

◆リベラルアーツ大学

歴史的にアメリカの大学教育は、「全人教育」、「教養教育」を目指すことから始まりました。これがリベラルアーツです。
もともと大学は、リーダーを育成するための高等教育と考えられていたため、リーダーに必要な資質である「分析力」、「判断力」、「決断力」を徹底的に鍛えるカリキュラムが確立されています。歴代の大統領をはじめ、中産階級以上の良家の子女が社会の中核を担うべく、高校を卒業した後に学ぶ場所がリベラルアーツの大学というわけです。
リベラルアーツの大学で学ぶ科目の基本は「サイエンス＆アート」になります。一般的には語学（英語、スペイン語をはじめとする第二外国語）、文学、歴史、科学、数学、音楽、芸術、経済学、心理学、生物、社会学、コンピュータなどが中心です。
またリベラルアーツの大学はほとんど私立大学です。もともとアメリカは私立大学が主流の国で、ハーバード大学にしろ、エール大学にしろ、アメリカ大学ランキングの上位は私立大学で埋め尽くされています。
リーダーシップを育てるためには、先生の講義を聞くだけではなく、教授や生徒と活発に議論をする過程が重要ですので、必然的に少人数制の教育になります。一般的にリベラルアーツの大学では 1 クラスの生徒は 15 人前後です。
日本人が留学する場合、文化の違いや英語のハンディがあるため、ほぼ例外なくカルチャーショックで自信を喪失しそうになります。その場合でも、リベラルアーツの大学はきめ細やかに学生をフォローするため、何とか壁を乗り越えられるケースが多いようです。
また、大都市ではなく郊外に広大なキャンパスを構える大学が多く治安が良いため、日本人のアメリカ留学にはリベラルアーツの大学が適していると考えられます。
リベラルアーツの大学にも専門課程の科目はありますので、4 年間をリベラルアーツの大学で勉強して卒業する人はたくさんいます。そして卒業後に専門科目を極めるため大学院に進学するケースも一般的です。このリベラルアーツの大学に医学や教育学、建築学、経営学などの実学を学部として加えていったものが総合大学と言えます。

◆州立大学

州立大学は経済的に豊かではない州民にも、より幅広く大学教育の門戸を開くべく設立された大学です。そのため学生数はリベラルアーツの大学より格段に多くなり、結果として 1 クラスの生徒は 100 人～200 人といった大人数の教育です。その中から本当に学習意欲のある人が残っていけば良い訳で、自己管理ができずに授業についていけなった人は次々と退学します。落第という制度はありません。
また、州立大学の中にはリーダーシップを育成するというよりは、仕事に役立つ専門的な知識の修得に力を入れている大学も少なくありません。専門分野で画期的な研究成果を上げている大学も数多くありますので、アメリカの大学生活に慣れた後、自分の専門分野を明確に自覚してから転学する方法もあります。
基本的に州立大学は勉強したいという意志を持つ人に、大学教育の機会を与える使命がありますので、入学することはそれほど難しくありません。かなり学力の低い人でも受入れてくれる州立大学が、各州には必ず存在します。
但し、卒業できるかどうかは本人の努力次第です。アメリカの大学はあくまで単位主義ですし、その単位も単位認定団体のガイドで評価されますから、評価が甘くなることはありません。そのため、州立大学に進学する時は、慎重にその大学のレベルや運営状況、教授数と学生数の比率、卒業率などを調査する必要があります。

アメリカ大学奨学金留学プログラム－費用案内 2026 年 1 月出発／2026 年 8 月出発／2027 年 1 月出発

- **申込金：￥33，000（税込）／出願手続料：￥77，000（税込）／外国送金手数料￥12，000**
- **プログラム費用： アメリカ大学奨学金プログラム￥448，000　アメリカ大学スポーツ奨学金プログラム￥616，500**
- **国内事前英語研修費用： 初級・中級￥407，000（税込）　上級￥418，000（税込）**

※TOEFL iBT 79／IELTS 6.5 以上の方は免除／初級、中級レベル修了後は、無料で次のレベルの受講が可能です（ライティング除く）。

費用に含まれないもの：

・学生ビザ諸費用：　＊F-1 ビザ申請料 US$185　＊SEVIS Fee US$350
・航空券代　・海外留学生保険料　・大学進学事前研修－札幌デスク提供オプション￥58,000 （ビザ申請書類作成・サポート含む）
・TOEFL iBT／IELTS 受験料　・大学の授業料、寮費、諸経費など（概算はオファーリストに明記）

（1）アメリカ大学アカデミック奨学金留学

米国では 90%以上の大学生が、何らかの奨学金をもらっています。この奨学金は、大学OBや地元の資産家からの寄付金が財源です。そして一定の比率で、海外からの留学生に対しても支給されます。しかも返済義務のない奨学金です。（貸付金ではありません）
日本ではなじみの薄い奨学金制度ですが、米国では日常的なことであり、日本の学生にも適用されます。この奨学金制度を利用した留学経験を通して、意欲あふれる日本の若者が、逞しい国際人に成長することを支援したいと考えます。
青少年異文化交流推進協会は、米国スカラーシップ協会の協力の基、奨学金を受けながら米国の大学へ留学を希望する 25 歳以下の日本人と、返済義務のない奨学金を提供する米国大学とを結びつける活動を推進しています。毎年変化する奨学金動向を調査し、日本の学生が奨学金を受給できるよう調整いたします。同時に、留学が実り多いものになるよう、有益な情報を提供していくものです。

アメリカ大学アカデミック奨学金留学－目的

この奨学金プログラムは、米国の大学で学ぶ意志を持つ学生に、経済的な支援を行ない、なお且つ大学留学までをサポートするプログラムです。提供する奨学金は、米国の大学から支給され、将来にわたって返済義務のない無償供与のみを対象としています。
日本の意欲あふれる若い人材を、国際化社会に貢献できるよう、資金援助しながら育成していくことが、プログラムの目的です。

アメリカ大学アカデミック奨学金留学－奨学金提供大学

この奨学金プログラムに参加している大学は、4年制州立大学、及び私立大学です。奨学金は入学時から卒業まで、ずっとその大学から返済義務なしで支給されます。
米国には偏差値による大学ランキングはありません。そのかわり、地域ごとに、卒業率、1クラスの人数、教授数と学生数の割合など、いろいろな視点から民間の出版社が独自に大学を評価し、公開しています。このプログラムに参加している大学は、US News 社等が毎年発表している大学ランキングで、平均または平均以上の大学です。奨学金を支給する大学は、予算状況によって顔ぶれが毎年入れ替わります。※奨学金の支給は、学部課程に限り、大学院は対象外です。
米国の大学には、大きく分けて2つの種類があります。1つは総合大学。もう 1 つはリベラルアーツ大学です。
前者は、専門知識を身に着けることを主眼としており、日本の大学に近い大学だとお考えください。総合大学は大学院を併設しているところが多く、教授たちは研究をしながら学部課程の授業を受け持ちます。一方、リベラルアーツ大学は、日本の国際基督教大学（ICU）に代表されるような少人数制の大学です。学内の授業では議論を繰り返し、「考える力」や「問題解決能力」を身につけさせます。
1校あたりの規模が小さいため、日本での知名度はあまり高くありませんが、歴代の大統領をはじめ、政治家、弁護士、医師などの多くはリベラルアーツ大学で学部課程を学び、その後に大学院で専門分野を身に着けています。

アメリカ大学アカデミック奨学金留学－プログラム概要

このプログラムは、日本の学生が米国の大学から奨学金を受け取り、留学生としてその大学に在籍し、国際的な環境のもとで、自らの学力向上を目指すことを推進するプログラムです。奨学金を提供する米国内の大学を集める一方、奨学金をもらいながら米国大学へ留学を希望する日本人学生と、奨学金を提供する米国の大学を結び付けます。

プログラム対象者	**大学入学時の年齢が 18 歳以上 25 歳以下の健康な男女** **・高校卒業見込みの生徒** **・高校卒業者** **・大学生（アメリカの大学に編入が可能な学生）** **・大学卒業者** **※高校卒業程度認定試験合格者の応募は受け付けておりません。** **※原則、最終学歴の成績が 5 段階評価で 3.0 以上であること。3.0 未満の場合はご相談ください。**
奨学金支給予定者数	**2026 年および 2027 年 1 月入学：75 名程度　　2026 年 8 月入学：125 名程度** このプログラムは、必ずしも日本の高校や大学で、高い学力や英語力を持っている学生だけに奨学金を与えるプログラムではありません。米国の大学が奨学生として受け入れる基準は多種多様です。そのため、このプログラムに興味のある方は、上記の対象者であれば、今現在の英語力や学力に関わらず応募することができます。
奨学金額	奨学金は、年間の授業料、滞在費（食費を含む）の 30～50%以上を免除する形で提供されます。在学中は卒業まで継続的に奨学金が支給され、米国の大学へ進学・編入を希望する学生にとって大きな経済的支援となります。 **＜例＞ 授業料・滞在費・食費の合計が年間$35,000 の場合** **①A 大学：奨学金 $10,500、 自己負担額 $24,500　②B 大学：奨学金 $17,500、 自己負担額 $17,500** ①や②のように、年間費用の 30%～50%以上の奨学金を毎年支給する大学から複数オファーがきます。その中から1校を選択して正式出願するという流れになります。
プログラム募集期間	**2026 年 1 月の入学希望者： 一次募集 2025 年 4 月 30 日まで　　二次募集 2025 年 6 月 30 日まで（最終締切り）** **2026 年 8 月の入学希望者： 一次募集 2025 年 11 月 30 日まで　　二次募集：2026 年 1 月 30 日まで（最終締切り）** 一般奨学金は、全ての書類提出が完了した方から順番に審査が開始されます。各大学は、申込み順に奨学金の支給を決定するため、早期の出願をお薦めいたします。募集期間に関わらず、定員に達し次第、締切りとなります。
必要な英語力	英語力だけで奨学金の金額や大学が変わることはありません。しかしながら、出発までに米国の大学で生活する上で、最低限求められる英語力を身につけていただく必要があります。 そのため、**当該プログラムでは、奨学金協会規定の TOEFL スコアを取得する、または国内事前英語研修の受講を義務づけています。**国内事前英語研修はオンラインで受講でき、TOEFL 対策に活用できる内容です。**一レベル修了で次レベルは一部を除いて無料受講が可能。**

（2）アメリカ大学スポーツ奨学金留学



このプログラムは、スポーツ奨学生として、日本の学生が米国大学から奨学金を受け取りながら米国大学に在籍し、スポーツ能力の更なる向上を目指すことを推進するプログラムです。
プログラムでは、スポーツ選手に奨学金を提供する米国大学を集める一方、奨学金の支給を受けながら米国大学へ留学を希望する学生と、奨学金を提供する米国大学を結び付けます。
一次書類審査に合格した学生は、米国の大学で年 1 回実施される実技審査会（トライアウト）に参加する必要があります。毎年7月に米国内で実施される「トライアウト／ショーケース」と呼ばれる実技審査会には、55～85の大学所属スポーツクラブ指導者や審査担当者が参加し、学生のレベルや学校が求める人材であるかどうかを、その場で確認します。スポーツ奨学生として大学に入学が決定した場合、スポーツをしながら英語の授業や学位取得を目的とした授業を受けることになります。その期間中、奨学生はアメリカの文化を知ることだけにとどまらず、世界各国から集まる同年代の学生とともに、国際的な人格形成を行います。
米国奨学金留学プログラムでは、米国の奨学金提供団体の協力のもど、奨学金を受けながら米国の大学へ留学を希望する 25 歳以下の日本人と、返済義務のない奨学金を提供する米国大学とを結びつける活動を推進しています。毎年変化する奨学金動向を調査し、日本の学生が奨学金を受給できるよう調整いたします。同時に、留学が実り多いものになるよう、有益な情報を提供していくものです。

アメリカ大学スポーツ奨学金留学－目的

米国の大学で学ぶ意志を持つ学生に、経済的な支援を行ない、なお且つ大学留学までをサポートするプログラムです。提供する奨学金は、米国の大学から最大 4 年間支給され、返済義務はありません。日本の意欲あふれる若い人材を、国際化社会に貢献できるよう、資金援助しながら育成していくことが、プログラムの目的です。

アメリカ大学スポーツ奨学金留学－奨学金提供大学と対象スポーツ

この奨学金プログラムに参加している大学は、アカデミック奨学金と同様に4年制州立大学、及び私立大学です。奨学金は入学時から最大4件間、ずっとその大学から返済義務なしで支給されます。支給額は学費と滞在費（食費を含む）の合計額 30%～50%以上のものだけを扱っています。学部課程に限り支給されるもので、大学院は対象外です。
スポーツによる奨学金支給ではありますが、アメリカが日本以上に文武両道を求められるため、スポーツはシーズン中のみ活動し、学業との両立を目指すことになります。

【対象スポーツおよび募集レベル】

種　目	男　子	女　子
サッカー	平　　均	平　　均
テニス	平　　均	平　　均
ゴルフ	平均以上	平均以上
バスケットボール	上　　級	上　　級

アメリカ大学スポーツ奨学金留学－概要

一次書類審査に合格した学生は、米国の大学で年 1 回実施される実技審査会に参加します。
毎年7月に米国内で実施される「トライアウト／ショーケース」と呼ばれる実技審査会には、55～85の大学所属スポーツクラブ指導者や審査担当者が参加し、学生のレベルや学校が求める人材であるかどうかを、その場で確認します。大学関係と直接話をする機会もあることから、このトライアウト／ショーケース参加までにしっかり英語力を伸ばしておくことが求められます。

【注意点】

①スポーツ奨学金は、大学でそのスポーツを継続できなくなった場合、奨学金支給がストップします。
②学業において、良い成績を維持できない場合、クラブ活動（スポーツ）は禁止されます。
③スポーツ奨学金におけるスポーツ活動期間は最大4年間です。そのため、ESL（留学生用英語研修）から開始となる場合、4 年目に奨学金支給がストップする危険性があります。早めに学部課程に出願できる英語力スコアを取得することが求められます。

↓

スポーツ奨学金では不安…。でも、アメリカの大学でスポーツにも力を入れたいという方、アカデミック奨学金でも可能です！

プログラムの対象者 	**大学入学時の年齢が 18 歳以上 25 歳以下の健康な男女** **・高校卒業見込みの生徒** **・高校卒業者** **・大学生（アメリカの大学に編入が可能な学生）** **・大学卒業者** **※高校卒業程度認定試験合格者の応募は受け付けておりません。** **※原則、最終学歴の成績が 5 段階評価で 3.0 以上であること。3.0 未満の場合はご相談ください。** **※すでにプロとして契約されている方の応募はできません。** **アメリカの大学には様々なレベルのスポーツリーグがあります。2つのチームを持ち、異文化交流に興味を持っている大学も多くあります。万一、応募者の希望するスポーツのクラブから奨学金の機会が得られない場合でも、アカデミック奨学金枠から支給される例も多く、奨学金のチャンスはどなたにでもあります。**
奨学金額	奨学金は、授業料、滞在費（食費を含む）の50%～100%を免除する形で提供されます。状況により 50%未満の場合もあります。 **＜例＞ 授業料・滞在費・食費の合計が年間$35,000 の場合** **①奨学金／ $35,000、 自己負担額／ $0 ②奨学金／ $17,500、 自己負担額／ $17,500**
審査基準 	日本の大学入試のような筆記試験はありません。まず書類審査でショーケースへの参加が決まります。例年 7 月にアメリカで行われるショーケースに参加することで、奨学金の支給と受入れが決まります。その最終的な審査は奨学金を支給するアメリカの大学が行います。 しかしながら、このスポーツ奨学金プログラムでは、書類審査のポイントやスポーツ種目ごとの難易度、本人の留学に対する考え方をチェックすることで、奨学金支給の可能性について大まかな予測を立てられます。現在までに事前チェックで、奨学金支給の可能性ありと判定された人には例外なく奨学金のオファーがあります。 そのため、プログラムを申込む前に必ず指定カウンセラーによる無料個別インタビューを受けていただき、スポーツ奨学金の可能性を確認しています。 **※各スポーツにおける実力と合わせて、英語力や学力も大事な要素となります。** **※大学アスレチックの強豪大学が多く参加する NCAA の Division I や Division II の参加大学でプレーするには、留学生も SAT（大学進学適正試験）の最低基準以上のスコア取得を求められることが多いです。**
トライアウト／ショーケース	例年 **7 月中旬にフロリダにて開催される2週間の実技選考会（トライアウト／ショーケース）に参加**します。 実技審査会への参加費用および滞在中の滞在費用、食費、移動費用などは、プログラム費用に含まれます。 ただし、現地集合・現地解散のため、実技審査会参加に必要なアメリカへの航空券代及びアメリカ内交通費、前後泊のホテル代、貝が旅行傷害保険料などは実費個人負担となります。
プログラム募集期間	**2026 年 1 月の入学希望者： 2025 年 5 月 31 日まで** **2026 年 8 月の入学希望者： 2025 年 5 月 31 日まで、または 2026 年 5 月 31 日まで** **＜2026 年 8 月入学希望者のサンプルスケジュール＞** 2025 年 2 月中に IYEO 宛お申込み ⇒ 2025 年 3 月下旬までに一次審査用書類提出 ⇒ 一次審査結果を通知 ⇒ 2025 年 7 月に二次審査・トライアウト／ショーケースに参加 ⇒ 正式出願大学の決定（2026 年 8 月入学）

＜アメリカ大学奨学金留学・参加者の声＞

Sayuki さん-North Central College（イリノイ州）





↑Sayuki さん

NCC の先生やスタッフは良い方ばかりで、サポート体制がしっかりしていると感じています。日本との行き来もしやすいエリアにキャンパスがあり、ダウンタウンも近いですが、安全な環境。シカゴまで電車 1 本で行くこともできます。生活しやすいところもおすすめです！

アメリカ留学奨学金支給実績大学（支給する大学は毎年変動があります）

大学名一覧	州	TOEFL	学校人数
Auburn University at Montgomery （州立）	Alabama	61	4,355
Faulkner University （私立）	Alabama	61	2,273
Spring Hill College （私立）	Alabama	80	1,183
University of Montevallo （州立）	Alabama	71	2,474
Alliant International University （私立）	California	80	416
Central Connecticut State University （州立）	Connecticut	79	8,643
Jacksonville University （私立）	Florida	76	2,194
St Thomas University （私立）	Florida	79	1,171
Webber International University （私立）	Florida	61	588
Columbus State University （州立）	Georgia	79	5,902
Shorter College （私立）	Georgia	61	858
Young Harris College （私立）	Illinois	79	1,100
IOWA Wesleyan College （私立）	Iowa	61	753
Hesston College （私立）	Kansas	61	429
Brescia University （私立）	Kentucky	79	607
Lindsey Wilson College （私立）	Kentucky	45	1,505
Mid-Continent College （私立）	Kentucky	48	682
Campbellsville University（私立）	Kentucky	61	583
University of Maine （州立）	Maine	76	8,287
Columbia College （私立）	Missouri	61	921
Hannibal LaGrange College （私立）	Missouri	68	789
Harris Stowe State College （州立）	Missouri	61	1,247
Lindenwood University （私立）	Missouri	61	4,450
Missouri Baptist University （私立）	Missouri	80	1,400
Missouri Valley College （私立）	Missouri	61	1,425
Washington University in St. Louis （私立）	Missouri	非公開	6,233
William Woods University （私立）	Missouri	61	1,113
College of the Southwest （私立）	New Mexico	79	631
St. Andrews University （私立）	North Carolina	61	572
Dickinson State University （州立）	North Dakota	71	2,461
Southern Nazarene University （私立）	Oklahoma	61	1,613
Lander University （州立）	South Carolina	80	2,568
University of Sioux Falls （私立）	South Dakota	75	1,090
King College （私立）	Tennessee	非公開	593
Lincoln Memorial University （私立）	Tennessee	61	1,000
Martin Methodist College （私立）	Tennessee	61	550
Maryville College （私立）	Tennessee	74	1,016
Tennessee Tech University （州立）	Tennessee	非公開	7,172
Tennessee Wesleyan College （私立）	Tennessee	79	779
Virginia Intermont College （私立）	Virginia	63	1100
Southern Verginia University （私立）	Virginia	79	729
Lawrence University （私立）	Wisconsin	90	1,322

アメリカ大学奨学金留学プログラム・よくある質問＆回答

1. 奨学金は、誰がどのような目的で提供するのですか？
奨学金は、アメリカの大学が直接留学生本人に支給します。奨学金の支給理由は大学により様々ですが、 主な理由としてはキャンパス国際化が挙げられます。多くのアメリカ人学生が、多様な人種、文化、国籍を持つ留学生と交流し、大学自体の活性化につながるという理由が多いようです。

2. 奨学金は返済しなければなりませんか？
このプログラムは返済義務の一切ない奨学金を対象としています。従って、返済する必要はありません。

3. 英語力がなくても応募可能ですか？
可能です。プログラムへの申込みの段階では英語力についての条件はありません。（例えば TOEFL 550 点以上が応募条件などにはなっていません）奨学金を得られるかどうかは、英語力で決まるわけではないのです。もし、入学する時点で英語力が足りない場合は、大学付属の英語教育機関で大学の定める英語基準に達するまで学びます。もちろんその間も奨学金の支給対象になります。

4. 奨学金を得られるかの審査基準を教えて下さい。
奨学金を支給するかどうかは大学の担当審査官が決定します。審査基準は大学によって様々ですが、主に提出された高校の成績、推薦状、エッセーなどで判断されます。

5. いくつの大学から奨学金支給通知をもらえるのですか？
平均して5～7大学からオファーがあります。その中から自分の行きたい大学を選んでいただきます。

6. 過去の奨学金支給大学はどのような大学ですか？
アメリカには約 3,500 以上も大学があり、認定団体から認定を受けていない大学も数多くあります。本奨学金プログラム参加大学は、該当地域の認定団体から認定を受け、教育機関として一定の評価を受けた大学が参加します。各種団体の発表するランキングやリサーチで高い評価を受けている大学も含め幅広く参加します。 尚、UCLA や New York 大学などの大学院教育に重きを置いている知名度の高い大学は参加しておりません。

7. 4 年制大学を卒業しているのですが応募できますか？
年齢が 25 歳以下であれば、大学を卒業されている方でも応募できます。ただし、日本で学んだ内容と同じ内容を再び学ぶことはできません。
（例えば、日本で経済学を専攻した人は同じ学部を専攻できません）また、大学院はこの奨学金では対象外となります。

8. 奨学金はどのようにして受け取るのですか？
大学に支払うべき授業料・寮費・食費の請求書が届きますが、その請求額が奨学金分だけ減額されており、現金で直接支給される訳ではありません。

9. 専攻は自分で選べるのですか？
はい、もちろん専攻の希望を出すことができます。ほとんどの社会科学系や文学・語学系の専攻であれば奨学金を取得することが可能です。
ただし、希望する専攻によっては大学が限定されてしまうこともあります。特に芸術系やスポーツ・医療系は少ないようです。

10. 奨学金は卒業するまで受けられるのですか？
はい。 基本的に奨学金は卒業するまで受け取ることができます。ただし、学業成績が芳しくないなどの理由で結果的に進級できなかった場合、大学が指定した最低限の成績を満たさなかった場合、また大学の規則に従わず退学になったりした場合など、 本人の責任で学業を続けられなくなった場合は、支給されません。特に問題がない場合は、ESL は最大 1 学年間、学部課程は最大 8 学期間（1 年に 30 単位で 4 年間）の奨学金が支給されます。

11. 大学を自主退学したり転校したりすることはできますか？
できます。例えば 2 年間奨学金をもらって進学し、3 年次に他大学に転校することも可能です。ただし、当該プログラムからの離脱となり、転校先大学からの奨学金支給の補償はありません。※プログラム内での転校も可能です。

12. 日本の大学で取得した単位を移行できますか？
可能ですが、日本で取得した単位によります。移行できる単位はアメリカの大学を卒業するために必要な学科に限ります。
なお、日本で取得した英語に関する単位は移行することはできません。

募集要項のよくある質問＆回答

1. 私はエッセーを書いたことがありません。どのように書いたらよいのでしょうか？
エッセーは奨学金支給を決める大切な要素のひとつですので、しっかりとしたものを作る必要があります。一例としてサンプルはお渡ししますが、自分で書き上げる自信のない方は、エッセー作成指導を受けられると良いでしょう（オプション）。

2. 推薦状を頼む場合、誰に、どのように頼んだら良いでしょうか？
大学出願用の推薦状は日本の推薦状とは形式が異なるだけでなく、大学への入学を決める大切な要素の一つです。賛美だけで具体例のない抽象的な推薦状はプラスに働きません。2 通の推薦状が必要ですが、高校や大学の担任やゼミの先生、クラブ活動の担当者など、自分をよく知っている方に頼みましょう。

3. 推薦者が英語の推薦状を書いたことがないのですが、どうしたら良いでしょうか？
推薦状翻訳サポートがありますので、利用すると良いでしょう。このサービスは、単なる英訳にとどまらず、海外の大学に提出する形式に合わせて、英文推薦状の作成をサポートするものです。

4. すでに大学が要求している TOEFL のスコアをクリアしています。それでも事前英語研修は必要ですか？
必要です。留学生の場合、TOEFL で何点取ったからといって、それだけで本当に十分と言える英語が身についているとは言えません。更に大学を卒業できるかどうかは英語力だけで決まらず、ネイティブの学生でも卒業できない学生はたくさんいます。大切なことは目標に向かって誘惑にも打ち勝ちながら勉強できるかどうかで、そのため英語力を強化させることはもちろん、しっかりと勉強する習慣を身につけるためにも受講が必要です。
ただし、規定の時期までに TOEFL iBT 79 以上／IELTS アカデミック 6.5 以上のスコアを提出した方は、英語力と同時に学習する習慣も身についているものと判断され、事前英語研修は免除されます。

5. 事前英語研修は、どのような内容ですか？
文法、リスニング、リーディング、ライティングの 4 科目で構成された、オンライン学習です。1 週間約 25 時間（1 日 3～4 時間）学習をした場合、16 週間で終了できます。学習のほとんどはドリルとテスト形式で、速聴・速読・速解の集中訓練で、且つ TOEFL 対策に対応しています。学習状況がデータとしてホストコンピュータに記録され、いつどの科目を、どれくらい勉強し、どの程度理解しているか、管理されます。また、通勤・通学用にリスニング CD とリーディングテキストがついています。

6. 事前英語研修に必要な環境を教えて下さい。
インターネット接続環境として、ブロードバンド環境（光通信、ケーブル、ADSL、CBTV、FTTH など）が必要です。OS、ブラウザーは次の通りです。
OS： Windows、Andoroid, MacOS, iOS いずれか
ブラウザー： Internet Exploare, Microsoft Edge, Mozilla, Firefox, Google Chrome, Safari いずれか

異文化交流推進ネットワーク
Intercultural Exchange Network
青少年異文化交流推進協会（IYEO）・札幌デスク
URL: https://www.ibunka-koryu.net
Email: info@ibunka-koryu.net ／sapporo@iyeo.org